

「部落解放・人権研究奨励賞」執筆要項

1. 本文について

- (1) 論文原稿は「である」調で、史料等引用部分を含めて横書きとし、Word 等テキスト文書で作成するものとする。
- (2) タイトルおよび見出し、本文、図表・写真・史資料等、注、引用・参考文献を含めて、A4判(40字×40行)を1枚として、10～13枚程度(16,000～20,000字以内)とする。
- (3) 全角文字を使用し、「フォント:MS明朝」「フォントサイズ:10.5ポイント」とする。
- (4) 欧文、および算用数字は半角文字を使用する。字体は「century」。引用史料、および慣用的に漢数字で表記するもの等を除き、数字表記はアラビア数字を基本とする。
- (5) 余白は「上 35mm 下 30mm 左右 30mm」とする。
- (6) 節は **1 2 3** (全角 MSゴシック 太字 10.5p)・・・、項は **1) 2) 3)** (全角 MSゴシック 太字 10.5p)・・・、目は **① ② ③** (MSゴシック 太字 10.5p)・・・と示し、各節、各項、各目の間には1行のスペースを入れる。
- (7) 「注」は、該当箇所に「フォント・上付き」で挿入する。注釈文章は、最後に一括して掲載する。

2. 注釈、引用・参考文献について

- (1) 「注」は、該当箇所に「フォント・上付き」で挿入する。
- (2) 注釈文章は、最後に掲載する。「本文」と「注」の間には、1行のスペースを入れる。
「注」と「引用・参考文献」の間にも1行のスペースを入れる。
- (3) 注釈文章が2行以上になる場合は、2行目以降は1マスおとす。
- (4) 引用・参考文献の提示の仕方は、以下のいずれかを参考にして作成する。

① 「注釈」に入れ込む。以下、提示例。

注

- (1) 有田裕子『教育社会学』西洋館出版、1990年、123-134頁。
- (2) 東洋一郎「教育社会学の反省」山田太郎編『教育社会学講座Ⅰ 教育社会学の方法』南洋館出版、1990年、10-25頁。

- (3) 井上敏子「教育社会学の展望」『教育社会学研究』第50集、1990年、10頁。
- (4) 同上、12頁。
- (5) Maeda, Taichi “Schooling in Japan,” *American Journal of Sociology*, Vol.62, No.3,1990, pp.5-18.
- (6) 前掲「教育社会学の反省」、23頁。

② 「引用・参照文献」として別途提示する。

- ・引用文献の提示のしかた

「しかし、有田（1990）も強調しているように……」

「確かに、井上（1990、21-24頁）も指摘しているが……」

「……という調査結果もある（Honda1990a、井上1990）。」

「フリックによれば『……ではない』という（Frick 訳書2002）。」

- ・同一著者の同一年の文献については、（Honda1990a、1990b）のように a、b、c、……を付ける。
- ・欧文書誌・雑誌名は、斜体にする。
- ・文献は、邦文・欧文を含めてアルファベット順とし、以下の例に従って注の後にまとめて記載する。翻訳書・翻訳論文については、原典の書誌情報を記載する。

引用・参照文献

有田裕子（1990）『教育社会学』西洋館出版。

東洋一郎（1990）「教育社会学の反省」山田太郎編『教育社会学講座Ⅰ 教育社会学の方法』南洋館出版、10-25頁。

Chiba, Masao（1989）*Sociology of Education in Japan*, US Press.

Frick, Uwe（1995）*Qualitative forschung*, Rowohlt Taschenbuch Verlag GmbH.,（=小田博志ほか訳（2002）『質的研究入門－〈人間科学〉のための方法論』春秋社）。

Honda, Naoki（1990a）*Sociology of Education*, Tokyo Press.

Honda, Naoki（1990b）*Sociology of School*, Japan Press.

井上敏子（1990）「教育社会学の展望」『教育社会学研究』第50集、10-25頁。

Maeda, Taichi（1990）“Schooling in Japan,” *American Journal of Sociology*, Vol.62, No.3, pp.5-18.

Tachibana, Kaoru（1990）“Recent Trends in the Sociological Studies of Education,” T.

Yamada ed., *Sociology Education*, UK Press, pp.17-28.

3. 年号表記について

- (1) 年号表記は、前近代については和暦（西暦）（例：天保4年（1833））、近代については西暦（和暦）（例：1873年（明治6））を原則とする。
- (2) 現代については、原則として西暦を用いる。

4. 図表、写真・史料、引用などについて

- (1) 図表が入る場合は、図と表にわけて、それぞれに通し番号をつける。図1、図2、図3・・・ 表1、表2、表3・・・
- (2) 図タイトルは「図の下」に、表タイトルは「表の上」につける。
- (3) インタビューの引用、史料の引用等については、前後1行空けたり、1マス下げたりして引用であることを明示する。